

巻頭言

比較日本学教育研究センター長

古瀬 奈津子

本センターでは、2016年度に第18回国際日本学シンポジウムおよび第11回国際日本学コンソーシアムを開催しました。2016年7月2日（土）・3日（日）には、「イメージと伝達の国際日本学」を統一テーマとして、国際日本学シンポジウムが開かれました。このシンポジウムは、本学のグローバルリーダーシップ研究所との共催事業であり、2日目は国立歴史民俗博物館との共催事業でもありました。1日目のセッション1では「異界との交流」をテーマとして、比較文学や日本文学、ヨーロッパ文学の研究者の方たちが、異界との交流譚や異類婚説話、異界から現れた狐や人魚姫などについて、さまざまな角度から論じられました。2日目のセッション2では「落語家が収集した一枚摺の世界」をテーマとして、国立歴史民俗博物館所蔵のコレクションである『懐溜諸屑』に収められている一枚摺という印刷物を取り上げて、美術史や芸能史、都市史などの研究者の方たちがそこから読み取れる江戸時代後期の社会について多面的に紹介してくださいました。一枚摺には芸能関係のものも多いため、落語家の方の実演が行われ、聴衆は江戸の世界へと導かれていきました。当日は、国立歴史民俗博物館長の久留島浩先生と本学副学長の猪崎弥生先生からご挨拶をいただき、学内外の各分野の先生方や学生さんたちも参加して活発な議論が繰り広げられました。このように、昨年度に引き続き、国際日本学シンポジウムは学外の研究教育機関との共催によって開催されましたが、これは国際日本学シンポジウムとしては極めて珍しいことで、大変内容が充実したものになったと思います。共催してくださった諸機関にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。

また、2016年8月7日（日）には本学の科学研究費助成事業との共催で国際研究セミナーが開かれました。このように、本センターの教員が行っている研究プロジェクトや関係している研究教育機関との共催でシンポジウムなどを行うことは研究の連携という視点から見て大変よいことであり、今後も継続していきたいと思えます。

国際日本学コンソーシアムは、「はたらく／あそぶ」を統一テーマとして、2016年12月12日（月）・13日（火）に開かれました。今年度の統一テーマは例年とはひと味異なり具体的な視点からのもので、各部会で興味深い発表が行われました。参加校は、従来の協定校以外に仁徳大学校（韓国）からも参加していただきましたが、数としては例年に比べてややさびしいものだったかもしれません。コンソーシアムに参加する各大学との連携を改めて確認する必要があることを感じました。一方で、参加してくださった海外の先生の中に本学の出身者が多くいらしたことが今年度の特徴であり、心強く感じた次第です。

現在学内の組織改編が行われており、本センターは来年度からグローバルリーダーシップ研究所に統合されその一部門となることになりました。しかし、今までのように国際日本学シンポジウムや国際日本学コンソーシアムは継続していく予定です。来年度からは、新しい体制によってシンポジウムやコンソーシアムなどを行っていくこととなりますが、皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2017年3月